

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月9日 宮川幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
1	架け橋期コーディネーターの配置について	架け橋期コーディネーターは、各幼稚園に1人、または各小学校区に1人ずつ配置されるという理解でよいでしょうか。	詳しい人数や配置については、今後検討していくことになります。現在も小学校区ごとにグループを組み、公立・私立の就学前施設と小学校が一緒に取り組んでいます。そのグループの中で、カリキュラムが円滑に進むよう、コーディネーターを配置し、動いてもらうことを考えています。誰をどこに配置するかという具体的な内容については、今後検討していきます。
2	今回の方針案が決定事項かどうかについて	今回の答申を受けた方針案は、現時点では完全に決定したのではなく、今後、議会に上げて議決されるという理解でよいでしょうか。また、他の園の閉園について反対意見が多い場合、方針が覆ることはあるのでしょうか。	現在は住民説明会を行って、保護者や地域の皆様に説明し、ご意見を伺っている段階です。最終的には議会の議決を経て決定される形になるので、現時点で完全に決定しているということではありません。
3	在園保護者の意見が届いていないのではないのかという思いについて	PTA活動などを通じて、これまでも幼稚園を今後どうしていくかについて話し合ってきました。3年保育の実施、未就園児向けの広場の充実、保育時間の見直し、午前保育の廃止、幼稚園型認定こども園への移行など、在園保護者も入園者を増やすための意見を出してきたつもりです。しかし、今回の話を聞くと、在園保護者の思いが届かず、答申をもとに閉園に向けて進んでいるように感じます。こどもが少ないから閉園するという単純な話ではないと思います。このような形になり大変残念です。	これまでにPTA等からいただいたご意見のすべてを採用するには至っていませんが、さまざまな施策は行ってきました。3歳児保育については岩園幼稚園で実施していますが近年は定員に満たない状況です。預かり保育も全園で実施していますがニーズが十分に伸びていない状況です。学校教育審議会では、園児数の減少という現状を踏まえながらも、人数だけを最優先に議論されたわけではありません。こどもたちにとってどのような環境が最も望ましいのかという視点から議論が行われたと受け止めています。
4	架け橋期コーディネーターの具体的な役割について	架け橋期コーディネーターについて、決まっている範囲で教えていただけますでしょうか。現在幼稚園で勤務している先生が兼任するのか、退職された先生など芦屋の幼稚園をよく知るかたが担うのか、新たに人員を増やして配置するのでしょうか。 また、宮川幼稚園は小学校に隣接しているため、行事参加や連絡がしやすい環境がありますが、周辺の就学前施設数の多い中学校区でそれらの施設と本当に手厚く関わるができるのか不安があります。 幼稚園教育の少人数ならではのよさが今後どうなるのかも教えてください。	今年度の状況として、すでに民間の認定こども園、保育所、幼稚園などとも架け橋期について話をしています。これまでも、隣接施設同士で交流は行っており、宮川幼稚園でも交流が進んでいます。小学校との関わりとしては、体験給食、就学前の運動会、小学1年生が小学校生活について伝える機会など、さまざまな交流の場を設けています。今後は、各園・各学校のカリキュラムにある取組について、文言や時期を共通化していきます。そのためには、小学校の先生と就学前施設の先生が話し合い、互いのねらいや効果を理解することが必要と考えています。コーディネーターについては、担任との兼任ではなく、専任として配置する予定です。学校のことを知る必要があるため、小学校にも入ってもらうことを想定しています。隣接している施設が先駆けとなり、そこでの取組を隣接していない施設にも広げていきたいと考えています。
5	架け橋期カリキュラムの開始時期について	宮川幼稚園の小学校との連携や、小学校に隣接している環境に魅力を感じています。資料では、架け橋期カリキュラムの本格的な稼働が令和11年度とされていますが、それまでは手探りで進め、令和11年度から実施されるという理解でよいですか。	現時点でも交流は行っていますので、令和11年度から突然大きく変わるというより、なだらかに変わっていくイメージです。小学校とのカリキュラム作成については、令和10年度に力を入れていきたいと考えています。カリキュラムを作成した上で令和11年度から本格実施という説明にはなっていますが、今行っていることを少しずつ膨らませていくというイメージを持っていたいただければと思います。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月9日 宮川幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
6	架け橋期コーディネーターが個別相談に関わるかについて	宮川幼稚園と宮川小学校では、校内見学や給食体験など多くの交流があります。架け橋期カリキュラムやコーディネーターは、こうした取組をシステム化していくものという理解でよいですか。また、園全体と小学校との連携だけでなく、個別の困りごとや小学校進学に向けた不安について、コーディネーターに相談し、小学校につなげてもらうことも想定されていますか。	システム化という点については、おっしゃるとおりです。各園でさまざまな取組がある中で、カリキュラムという共通のものを作り、誰が見ても小学校と就学前施設がどのように連携しているのか分かるようにしていきます。相談窓口については、現時点では、コーディネーターが個人的な相談を直接受けるというところまでは考えていません。
7	園児数の推計方法について	資料の最後のページにある園児数の推計表について、この数字はどのように算出されたのでしょうか。	地域におけるこどもの数(住民基本台帳上の人数)をもとに算出しています。具体的には、現在の幼稚園には園区はないものの、過去の園区である地域にいるこどもの数と実際の園児数から「就園率」を算出し、その率を来年度以降、対象年齢のこどもの数にかけて推計をしているものです。
8	園児数の推計方法について	他の園が閉園した場合、宮川幼稚園の人数が増えるように見込んでいるのでしょうか。	令和9年度末に閉園を予定している園が2園あるため、その分については令和10年度以降の園児数に反映しています。ただし、お一人おひとりが実際に通ってくださるかどうかなというニーズを個別に数えているわけではありません。就園率をもとに算出しつつ、小槌幼稚園・西山幼稚園が閉園することによる影響も考慮して推計しています。推計は難しい面があり、近年は幼稚園というカテゴリー自体が選ばれにくくなっているため、推計より少なくなる可能性もありますが、閉園となる園周辺のお子さんが今後宮川幼稚園に来ていただくことも考えられ、市としてもそうしていただきたいという思いがあります。
9	幼稚園と認定こども園の違いについて	幼稚園と認定こども園では、教育内容が違うのでしょうか。また、運営の仕組みが違うのでしょうか。	近隣の公立の認定こども園としては西藏こども園があります。制度上のカテゴリーとしては幼稚園、保育所、認定こども園で管轄や考え方が異なる部分はありますが、基本的には教育部分の中身は同じと考えていただければと思います。実際にお子さんが受ける教育については、西藏こども園にも市立幼稚園に在籍していた教諭も勤務しており、同じような形で教育を行っています。市としてお子さんの育ちについて違いが出ないように取り組んでいます。
10	幼稚園の今後について	今後、幼稚園という形を残していくのか、それとも認定こども園に統合していく流れなのか、方針はあるのでしょうか。	今回、学校教育審議会から答申をいただいたのは、園児数が少なくなっている状況のなかで市立幼稚園をどうしていくかという部分であり、そのなかで3園を残すという結論をいただいたところです。近隣市や全国的な流れを見ると公立においては、幼稚園と保育所を統合し認定こども園化を進めているところもありますが、本市では、現時点では3園の市立幼稚園を残し、各圏域の拠点としての役割を持たせるという考えです。
11	幼稚園と認定こども園の違いについて	今回の案では、公立幼稚園というカテゴリーは残す、という理解でよいでしょうか。	しかしながら、今後も少子化が進む中で、将来的にはこどもたちの状況をみながら、保育所や認定こども園も含め芦屋市全体の中で就学前施設をどのようにしていくべきかを考える必要があるとは思っています。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月9日 宮川幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
12	幼稚園の強みや魅力の発信について	公立幼稚園を残していくのであれば、幼稚園の強みや残していく意味をもっと明確に打ち出した方がよいと思います。保護者として、幼稚園と認定こども園の違いが分かりにくく、どちらに行けばよいのか迷いました。幼稚園には明るく、のびのびしたよさがあると思いますが、そのよさが十分に伝わっていないように感じます。幼稚園のよさや存続する意味をもっと伝えることが、入園者の増加にもつながるのではないのでしょうか。	これまでもInstagramを始めたり、さまざまな場でアピールしてきましたが、まだ勉強しなければならないと認識しています。幼稚園のよさをさらにアピールできるよう努めます。また、架け橋期コーディネーターについても、幼稚園でこれまで培ってきたものを、市内の就学前教育・保育施設に共有していく役割があると考えています。幼稚園のよさだけを他の就学前施設に押しつけるのではなく、お互いに高め合う形で、幼稚園をよく知る者が中心となって伝え、進めていければよいと考えています。
13	少人数から小学校へ進む際の不安について	現在、幼稚園や認定こども園を探しています。市立幼稚園も検討していますが、園児数の少なさが気になっています。小学校に上がった時に、自分のこどもだけが大人数に慣れていないのではないかと、友達がいない状態で小学校生活が始まるのではないかとという不安があります。市立幼稚園から小学校へ進む際の人数のギャップや友達関係へのフォローについて、具体的な取組があれば教えていただきたいです。	近年は、他の就学前施設と行き来する交流を非常に多く行っています。特に宮川幼稚園では単なる交流にとどまらず、一緒に研究する機会も持っています。そうすることで、こども同士がつながっていきます。例えば、年長の後半になると、交流のなかで、こども同士で「同じ小学校に行くんだね」というつながりができます。小学校が同じでなくても、地域で会った時に声をかけ合うような機会も増えます。園で毎日一緒に生活していなくても、周りには友達がたくさんいると感じられる機会を増やしていきたいと考えています。不安なことは、ぜひ園に伝えてください。
14	説明会の周知方法について	この説明会には、在園保護者や地域のかたが多く来られていると思いますが、小さなお子さんがある家庭には説明会自体が伝わっていないのではないのでしょうか。 資料だけを見ると、市立幼稚園は人数が減り、閉園されていくという印象を持たれ、幼稚園ではなく別の施設を考える方向に進んでしまっているのではないのでしょうか。小さなお子さんがある家庭に対して、今後どのように説明の機会を作るのですか。 また、架け橋期コーディネーターによる交流が増えることはよい面もあると思いますが、園での遊びが途切れないか心配です。3園ではなく、5園を残したまま、交流を分散させることはできないのですか。大人だけで決めるのではなく、こどもの気持ちも考えてもらいたいです。	私たちは、こどもたちを一番大事に考えています。こどもたちがどう成長していくのか、そのためになにが必要なのかを常に考えなければならないと思っています。学校教育審議会においてもこどもを中心という考え方に立って議論をいただき、小学校に隣接する市立幼稚園3園を残して各圏域の拠点としての役割を果たすという考えを示されたと認識しています。 架け橋期コーディネーターは置くことがメインになるのではなく、日々の生活や遊びを一番大事にしながら考えていきます。 幼稚園にまだ通っていない世代への周知については、広報やホームページに掲載しているほか、今回は子育てアプリにもイベントとして登録し、開催時にプッシュ通知が届くようにしています。また、西山幼稚園と小槌幼稚園の周辺掲示板にも説明会の日程を掲示しました。 今後も、不安がある場合には誠実に説明していきたいと考えています。よい方法があれば教えていただき、それも踏まえて取組を考えていきます。
15	説明会の周知方法について	説明会の開催に係る案内について、この辺りの掲示板には貼っていないのですか。もっと広い範囲に掲示することは検討されなかったのですか。	掲示板の活用については、閉園予定の園の周辺地域を中心に、そこから少し広げたエリアまで掲示する形をとりました。市内全域に掲示するところまではできていません。
16	今後の説明会について	今後、実際に動き出す段階やカリキュラムが決まった段階で、改めて説明会などは予定されているのですか。	今回のような形での説明会は、現時点では予定していません。ただ、園での生活の中で具体的に動き出す際には保護者のかたにお伝えしていきます。

市立幼稚園の今後についての説明会 意見・質問及び教育委員会としての考え方(令和8年7月9日 宮川幼稚園開催分)

番号	項目	意見・質問	教育委員会としての考え方
17	幼稚園の情報発信のあり方について	幼稚園のよさは、掲示物や広報だけではなかなか届きにくいと感じています。保育園、幼稚園、認定こども園のどこに行くか迷った際、保健師さんから保育所や認定こども園を勧められましたが、幼稚園を勧められることはありませんでした。実際には、近くで幼稚園に楽しく通う様子を見たり、先輩保護者から幼稚園のよさを聞いたりしたことが決め手となり、今は幼稚園に通わせてよかったと思っています。新生児訪問や健診の場で、保育所、認定こども園、幼稚園などの選択肢を分かりやすく伝えたり、在園保護者の生の声を聞ける機会を作ったりすることが必要ではないでしょうか。子育てアプリについても、知らないかたやインストールしていないかたが多いと思うので、最初の段階で丁寧に案内する必要があると思います。行政側から家庭に合った選択肢を伝えていくことは、保護者にとってもよいことだと思います。	ご指摘のとおり、行政側からのアプローチについては、もう少し考えていく必要があります。幼稚園や保育所も含め、現場の先生のところにも保護者の声がたくさん届いていると思いますので、そうした声を直接聞ける機会も含めて考えていきます。アプリについても入れているかた、入れていないかたがおられると思いますが、市としては、できることをすべてやっていくという考え方の中で、今回は方法の一つとして活用しました。〇歳児健診など、同じ年齢層のかたに向けたイベントや事業の場も活用し、なるべく多くのかたに知っていただけるようにしていきます。
18	少人数だからこそ救われるこどもがいることについて	少人数だからこそ救われたこどもたちがいることを伝えたいです。この幼稚園に入り少人数のクラスで良い先生に出会い、落ち着いて過ごせるようになりました。小学校に入った当初は大人数に驚いていましたが、今は楽しく通っています。幼稚園はこどもにとって心の拠り所になっています。就学前の時期はとても大切で、特性のあるこどもや個別にフォローが必要なこどもにとっての居場所も考えていただきたいです。また、そうしたこどもが通常の小学校に進む場合にも、取りこぼされないような接続にしてほしいです。	ご指摘のとおり少人数のよさは、まさにそういうところにもあります。ただ、人数が多いからできないというわけではありません。地域の中で、同じクラスになったこどもたちがどのように一緒に過ごしていくのかを経験できるようにしたいと思っています。できないことがあった時に、隣の人に手伝ってもらうことが当たり前になる環境を大切にします。そして、手伝ってもらったことに対して「ありがとう」と言えること、「ありがとう」と言ってもらえたことをうれしく思えることを、幼児期にしっかり経験してほしいと思っています。いろいろなこどもがいて、それぞれできること、できないことがあるという大事さは、これからも大切にしていきます。また、小学校でもインクルーシブな考え方については、意識として強く持っていますので、ご安心いただければと考えています。